

日本海沿岸縦貫自動車道を 田沢代議士に陳情

所用で来県されていた田沢吉郎代議士が8月30日、市役所に立寄られ森田市長と懇談しました。

森田市長は、この機会をとらえて田沢代議士に、西北五の大きな課題である日本海沿岸縦貫自動車道について陳情。

その内容は、「新潟・山形・秋田・青森4県の日本海沿岸地域の産業・経済・文化の発展と開発を促進するため、日本海沿岸縦貫自動車道のルートを、これら4県の日本海沿岸地域を縦貫するよう要望。また、現在策定中の第四次全国総合開発計画において、それを明確に位置づけられるよう要望する」というものです。

これに対し、田沢代議士は「趣旨は十分理解している。実現に向けて努力する」と述べていました。



全国大会で準優勝 — 五一中卓球女子 —

去る八月二十日から四日間、北海道千歳市のスポーツセンターで開催された「全国中学校卓球大会」で、五所川原第一中学校(三上民雄校長 生徒数一、一九五人)の女子卓球部がみごと準優勝を果たしました。

同校は、出場三年目で初の決勝トーナメント入りを果たし、快進撃をみせ決勝戦にまで勝ち進んだものです。

同校では八月二十七日、これを記念して卓球部員がプラスチックバンドと一緒に市内をパレードしました。

老人保健芸能 大会開かれる

趣味を生かして精神面から若返ろう——と八月二十三日、市老人クラブ連合会(葛西専造会長 八十七単位クラブ)主催の第二回老人保健芸能大会が、市民文化会館でお年寄り達約六百人が出席して開かれました。

今回は六十七組が出演。種目も舞踊、手踊、歌謡、民謡からコーラス、劇と、また曲名も「津軽よされ節 じよんがら節」などおなじみのものから、「ボケナイ音頭」まで多種多彩。

また、この日は来五中の八戸市老連の役員など二十八人も出席し、共に楽しんでいました。



毎号とじこんでください。後できつとお役に立ちます。

市民憲章 (昭和59年10月1日制定)

昭和60年
 No.599

9-15

わたくしたちの先人は、不撓不屈の五所川原魂をもってあらゆる困難を克服し新田を切り開き、今日の活力に満ちた五所川原市を築き上げました。

わたくしたちは、この伝統を継承し、広い視野に立って西北津軽の人々と協調し、郷土の限らない発展を願って、ここに市民憲章を定めます。

- ◎心身ともに健康で、明るい家庭をつくります。
- ◎自然を大切にし、力を合わせて花と緑の美しいまちをつくります。
- ◎平和を愛し、きまりを守り、住みよいまちをつくります。
- ◎文化を尊び、生涯学習をもとに心豊かな人をつくります。
- ◎未来に夢を持ち、創意と実践により栄えゆく郷土をつくります。

人が誕生

元1人、新人9人

人の新議員が誕生しました。
新議員に今後の活躍を期待いたします。



くしびき ひでゆき
榎引 英之 (33)
飯詰字皆瀬1番地2



つる や とし お
鶴谷 敏雄 (55)
旭町12番地

- ▽当選
- 一七六〇 鶴谷 敏雄 無現
- 一七二二 榎引 英之 無現
- 一六八〇 葛西 収三 無現
- 一四九四 前田 清勝 無現
- 一四八六 泉谷 正志 無現
- 一四二五 石岡 裕 無現
- 一四〇六 大野 欽也 無現
- 一三六七 外崎彦三郎 無現
- 一三九九 和島 就藏 無現
- 一三〇九 吉岡 浩 無現
- 一二三五 平山 則雄 無現
- 一一五五 寺田 義雄 無現
- 一一五五 小田桐秀則 無現
- 一〇九七 浅川 勇 社現

市議選開票結果

(定数24 候補者数28)

- ▽次点
- 一〇八六 山口 徳二 無現
- 一〇七三 宮川 亮治 無現
- 一〇六五 川浪重次郎 無現
- 一〇四四 中村 良雄 公新
- 一〇三〇 川浪 直治 無現
- 一〇一五 鎌田 清夫 無現
- 一〇一四 澁谷 守夫 無現
- 九九一 齊藤 昇 民元
- 九七三 上 理 無現
- 八七二 工藤 善司 共新
- 八三三 齊藤 一郎 無現
- 七九六 山田 誠紀 無現
- 六一六 神 皓二郎 無現
- 五一八 鳴海 真一 無元



まえ だ きよ かつ
前田 清勝 (44)
梅田字福浦67番地



か さい しゅう ぞう
葛西 収三 (48)
七ツ館字虫流85番地6



との きき ひこ きぶ ろう
外崎 彦三郎 (61)
敷島町27番地28



お の きん や
大野 欽也 (53)
松島町8丁目45番地



い し お か ゆたか
石岡 裕 (47)
野里字野岸7番地2



い ず み や ま さ し
泉谷 正志 (60)
毘沙門字熊石18番地



て ら だ よ し お
寺田 義雄 (65)
唐笠柳字藤巻4番地



ひ ら や ま の り お
平山 則雄 (47)
姥苅字船橋229番地20



よ し お か ゆたか
吉岡 浩 (48)
川山字森内34番地3



わ じ ま しゅう ぞう
和島 就藏 (51)
飯詰字福泉128番地1

新議員24

現14人

任期満了に伴う市議会議員一般選挙の投票
が9月8日行われ、即日開票の結果、次の24



あさかわ いさむ
浅川 勇 (55)
敷島町 36 番地 14



おだぎり ひでのり
小田桐 秀則 (48)
高野字柳田 280 番地



みやかわ りょうじ
宮川 亮治 (56)
下平井町 165 番地



やまぐち とくじ
山口 徳二 (56)
柏原町 64 番地

新議員二十四人に対する
当選証書の交付が九月十日、
市長公室で行われ、岩淵嘉
治美市選挙管理委員長から
新議員、代理人にそれぞれ

当選証書を交付

▽有権者数	三六、九九五人
▽投票者数	三三、六七五人
▽投票率	八八・三二%
▽有効投票	三三、五一九票
▽無効投票	一五六票
あん分票は切り捨て	



当選証書が手渡されました。
当選証書を交付後、岩淵
委員長は「市民の代表とし
て活躍され、市発展のため
にご尽力ください」とあい
さつを述べました。



かまた きよお
鎌田 清夫 (55)
小曲字沼田 41 番地 10



かわなみ なおじ
川浪 直治 (76)
藻川字村崎 555 番地 1



なかむら よしお
中村 良雄 (46)
幾世森 34 番地 22



かわなみ じゅうじろう
川浪 重次郎 (65)
鶴ヶ岡字鎌田 281 番地 2



くどう ぜんじ
工藤 善司 (57)
新町 58 番地



みき かみ おさむ
三上 理 (57)
岩木町 17 番地



さいとう のぼる
斉藤 昇 (59)
松島町 2 丁目 1 番地



しぶたに もりお
澁谷 守夫 (56)
金山字盛山 94 番地

9月15日(21日) 敬老の日・老人福祉週間

人生に定年なし

—生きがいづくりはみんなの手で—

いま、百人のうち約十人が六十五歳以上のお年寄り
—これが三十五年後の昭和九十五年には二十二人と二倍以上に増えると予測されています。

三十五年後に六十五歳になる人、つまりお年寄りの仲間入りをするのは、いま働き盛りの三十歳。よく言われる高齢者問題というのは、なにもお年寄りだけの問題ではなく、若い人達のやがて直面しなければならぬテーマであり、そして社会全体の課題でもあるのです。

同時に、わが国人口の高齢化は、諸外国に例を見ないテンポと規模で進むことも、あわせて考えておかなければならない問題です。
九月十五日は「敬老の日」また、この日から一週間は「老人福祉週間」です。
人生に定年なし——この機会に老人の生きがいとは、よき老後とはについて考えてみました。

「思いやり」が生きがいを奪うことも

—ある家庭での話です。

「畑仕事を続けたい。ツルがもう一メートルにも伸びた。いま手入れをしないと、いいカボチャができな

い」
おじいさんは、畑仕事が唯一の楽しみでした。近くの農家から借りた、狭いながらも「自分の畑」に通い、野菜づくりにいそしむことに日々の喜びを感じていました。娘夫婦と三人の孫に新鮮な野菜を食べさせたい

——これがおじいさんのなにより生きがいだったのです。
ところがある日、娘さんから「少しは体のことも考えてください」と、野菜づくりを禁じられてしまいました。

娘さんにしてみれば、おじいさんが畑仕事には直接ひびかないものの軽い腰痛

を訴え、それに下痢ぎみだったことから、しばらくのんびりしてもらおうと考えたことでした。

この日以後、おじいさんは部屋に引きこもりがちになり、その上、悪いことに生来の持病まで再発してしまつたそうです。

これは極端な例かもしれませんが、この話にはわたし達が高齢者問題を考える上での貴重な教訓が含まれています。

「お年寄りに対する思いやり」が逆に「生きがいを奪う」結果を招く場合が、往々にしてあるということ

です。
総理府が行った「高齢化問題に関する世論調査」(昭和五十五年)によりますと、「老後はどのようなことを境に始まるか」に対する主な回答は、次のようになっています。
体の自由がきかない時 30%
仕事をやめた時 23%
年金をもらう時 21%

行商ひとすじ50年



奈良岡 子ヨさん 73
川山 字 森内

奈良岡さんは、行商を始めてから五十年以上になります。
雨や雪の日も毎日欠かさず、自転車に野菜や果物、菓子などを積んで川山から五所川原へ商いに來ます。今年の一月末、

吹雪で交通が一時ストップしたことがありました。が、この日も奈良岡さんは休まなかつたとのこと。今では、奈良岡さんが運ぶとお客さんが逆に心配してくれるという。「この五十年間、病氣らしい病氣一つしないでこれたのも、毎日、自転車で行商を続けてきたからだと思う。健康な限り続けていきたい」と語る奈良岡さんです。

「老い」ではなく「熟す」のです

これを男性だけについてみますと「仕事をやめた時」が三八%でトップを占め、一般に言われる「定年後グツとふけこむ」ということが、なるほどとうなずけます。つまり「意欲を失う」ことが老化を速めているといつていいでしょう
お年寄りの生きがいを考えるとき、わたしたちが心したいのは「積極的」な生きようとする意欲を奪ってはならない——これが基本です。
人生には定年がないので

「まず健康で、暮らしに困らなくて、グチを言わなくてすむ生きがいのある生活が送れること」と、だれもが口をそろえます。
衣・食・住だけでなく、医・職それにプラス生きがい保証された暮らしこそ、よき老後ということになります。経済面での安定と丈夫な体そして生きがい——お年寄りが自立するために

は、この三つが不可欠といえるでしょう。

総務庁統計局の「老年人口の現況」(昭和五十五年)によりますと、六十五歳以上のお年寄りが「職に就きたい」と思う理由としてあげているのは、次のようなものです。
生活をより豊かにしたい 29%
生活費を得たい 17%
余暇ができた 14%
知識や技能を生かしたい 8%

こうした回答からもわかるように、職を求めることによって日々の生活を充実させ、これまでに身につけた知識や技術を社会に役立てたいという積極的な意欲がうかがえます。
熟年——「老い」のではなく「熟す」。この言葉がお年寄りの心境を端的に物語っていると言えないでしょうか。



火の用心を呼びかけ 松島町

八丁目



阿部木さん、佐々木さん、高瀬さん、藤崎さん、川越さん、斎藤さん、対馬さん、丸内さん、後列左から、前列左から

松島町八丁目に住む佐々木さよさん(八十二歳)、高瀬みづさん(八十歳)、高瀬なみさん(七十八歳)、対馬八千代さん(七十七歳)、川越とせさん(七十歳)、阿部初美さん(六十歳)の六人は、五年前から同町内を巡回しながら、火の用心の呼びかけを行っています。感謝されています。

スタート当時は十人、内をゆくり巡回します。そのためもあって、この五年間同町内では火災の発生がゼロ。

佐々木さん達は、「ごころう様の声に励まされて五年間続けることができました。これからも続けたい」と語っていました。

ボランティア活動が生きがいを高める

若い人とお年寄りとで、ある二つの調査によると、

お年寄りの潜在ボランティア人口は、若い人に比べて非常に多いということが分かります。

六十歳から七十四歳までの人に「地域奉仕活動への参加意向」を聞いた調査結果(総務庁老人対策室・昭和五十七年十月調査)では、地域奉仕活動に「参加する」「参加したい」とする人の合計は全体の六九・二%を占め、「参加したくない」(三〇・八%)と答えた人を大きく上まわっています。一方、二十歳以上の人に同じような質問をした調査(ボランティア活動に関する世論調査・総理府昭和五十八年九月調査)では「ボランティア活動をしてみようと思う」と答えた人は、活動中の人も含めて四三%と逆に低くなっています。

六九・二%と四三%——二つの調査から推し量るのは、少し早計かも知れませんが、余暇時間の比較的とれるお年寄りにとって、ボランティア活動が大きな関心事であることは確かなようです。



お年寄りの果たす役割は大きい

今や日本は世界一の長寿国。豊富な人生経験と知識をもったお年寄りが、積極的にボランティア活動に参加するようになれば、地域に果たす役割は大きく、また、お年寄り自身の生きがいも高めることにもつながるでしょう。

お年寄りができるボランティア活動

- ☆環境美化活動

公園などの公共地を掃除したり、植木の手入れをしましょう。また、花だんの手入れなどもいいアイデアです。
- ☆地域の安全管理活動

子どもの遊び場や通学路を安全点検する、というのはいかががでしょう。また、防犯・防災運動として、地域の見回りをするのも一つのボランティア活動です。
- ☆訪問活動

寝たきりのお年寄りや、体の不自由な人のいる家庭や施設を訪問したり、手伝いに行ったりしましょう。また手づくり品のプレゼントなども喜ばれます。
- ☆教育・文化活動

お年寄りが伝えなければ、郷土芸能や古くからの遊びはその時点で途絶えてしまいます。踊りや歌、おもちゃの作り方やその遊び方などをお年寄り自らが手本となって、若い人や子ども達に伝えましょう。
- ☆団体活動のお世話

町内会、婦人会などの運営について相談に乗ったり、老人クラブでの世話役活動を積極的に引き受けましょう。若い人や地域とのつながりが、より密接になります。

熱中できるのが健康の秘けつ



山谷石蔵さん(87) 岩木町

山谷さんは六十一歳の時、森田村から本市に移り住まれ、それから始められた「のこ目立」が二十六年になります。現在、市内での仕事をされていく人は五人程おりますが、その中では最年長の現役です。

山谷さんは、これまで本業と共に老人クラブ会長や簡保組合長をそれぞれ十年歴任。

現在は市教委の「北辰大学」の十二年生です。これは、三年間皆勤で卒業後も聴講生として学んでいるもので、山谷さんの意欲がうかがえます。

さらに山谷さんが熱中されているのが「ゲートボール」です。岩木川河川敷にコートを作るために、関係方面に交渉し完成させたことは多くの人が知るところ。今年七月には、全日本ゲートボール連合の審判員資格も取得。

山谷さんは、「ゲートボールなどに熱中できるのが精神的に良く、それが健康の秘けつかも知れない」と語っていました。

台風リンゴに大打撃

被害対策
本部設置

九月一日の台風十三号の通過によって、本市はリンゴを中心とした大きな被害

を受けましたが、幸いケガ人などはありませんでした。五日までの被害状況は、



強い風にたたかれて落ちたリンゴ

リンゴの落果など被害額が約八億四千万円。リンゴの落果は、品種や地域によって差がありますが、特にデリ系とふじの被害が大きいです。一方、建物などでは、広田団地の市営住宅のトタン屋根がはがれるなどの被害がまし

監査委員に石岡氏

—消防事務組合—

去る八月二十一日の五所川原地区消防事務組合臨時



森田市長から辞令を交付される石岡氏

議会で、欠員中である常勤監査委員の選任について議会の同意が得られた石岡彦永門氏(五十二歳)への辞令交付が八月二十二日、市長室で管理者である森田市長から行われました。監査委員に就任した石岡氏は、市内福山に在任し、市農業委員三期、市消防団副団長(二期)、市議会議員三

た。市では五日、森田市長を本部長とし県、市、農協などからなる「台風13号被害対策本部」を設置。六日に

ママさん体育大会

開かれる

学区対抗ママさん体育大会(市教委主催)が九月一日、市民体育館で開かれました。

この大会は、日頃運動が不足しがちな婦人達の健康と体力の増進を図り、市民のスポーツへの関心をより一層盛り上げると共に、参加者の親睦を深めようとい

期、市議会経済常任委員会委員長、同建設常任委員会

副委員長などを歴任しまし

福祉に役立ててと10万円寄付

市内みどり町八丁目に住む長田房弥さんは八月二十



目録を手渡される長田さん(左)

二日、市役所を訪れ「市の福祉関係に役立ててください」と十万円を寄付され、森田市長にその目録を手渡されました。これは、去る七月十三日に亡くなられた母ミヨさんの遺志によるもので、香典返しを兼ねたものです。

消防屯所が落成

—稲実など四力所—

老朽化に伴う建て替えを進めていた稲実、鶴ヶ岡、高瀬、金山の四カ所の消防屯所がこのほど完成。八月三十日には稲実の消



稲実の消防屯所の落成式

防屯所で、同地区主催の消防所と警鐘台の落成式が行われ、市から森田市長が出席しました。同屯所は木造モルタル平屋建て、床面積二・六八㎡、工事費約一四二万円です。同屯所では、このほか新しく配備された小型動力ポンプ付積載車の入魂式も併せて行われました。

町内の道路のゴミひろい

—末広新宮子供会—

末広新宮子供会では、夏休み期間中の七月二十七日と八月二十日の二日間、朝のラジオ体操終了後、町内



ゴミをひろい集める子ども達

の道路のゴミひろいを行いました。ゴミひろいには、子ども達や町内会役員、子供会世話人など、二日間延べ約百八十人が参加。ゴミ袋二十七袋いっばいのゴミがひろい集められ、子ども達はその量の多さにびっくりしていました。



国勢調査にご協力を

10月1日全国いっせいに行われます

今回調査の対象は約一億二千万人と見込まれています

来る十月一日には、国勢調査が全国でいっせいに行われます。国勢調査は大正九年に第一回の調査が実施されて以来、五年ごとに行

九月下旬から国勢調査員がお伺いします

調査票の記入のお願いのために、国勢調査員が九月下旬から皆様のお宅にお伺いします。その際に調査票

われ今回は十四回目になります。今回の調査では、全国で約一億二千万人、約三千八百万世帯が対象となると見込まれています。

とともに記入方法などを示した「国勢調査についてのお願い」を一緒にお配りします。

調査票はマークシート方式になっています

調査票は、マークシート方式といって調査票に印刷された二ミリ×四ミリの枠(□)内に黒鉛筆で○のように横線を太く、濃く記入していただくようになっていきます。記入方法や記入に当たっての注意を「国勢調査についてのお願い」に示してありますので調査票を記入する前によくお読みください。また、国勢調査についての疑問、お問い合わせなどについては、調査員または市におたずねください。



国勢調査についての
お問い合わせは、市
国勢調査事務局(☎
05 5794 番) へど
うぞ。

ありのままを記入してください

国勢調査の調査票は統計を作る目的以外に使用することは決してありません。また、調査員をはじめ調査関係者は、統計法という法律によって調査票の内容を



国勢調査から得られる統計は行政施策の重要な資料となります

国勢調査によって、わが国全体の人口が正確に把握されるほか、都道府県や市区町村ごとの人口、あるいは男女別、年齢別、産業別などの人口構成も明らかにあります。さらに、急ピッチで進行するわが国の高齢化社会の実態、母子世帯、昼間の人口および世帯の状況の把握などにも重点が置かれます。つまり、現在わが国が抱えているさまざまな問題を的確にとらえるこ

他に洩らしたりすることを固く禁じられています。どうぞ、安心してありのままを記入して下さるようお願いいたします。

とができます。そのため、調査結果は、国および地方公共団体の行政施策の重要な資料となります。



住みよい環境づくりの作品展

住みよい環境づくりの一環として、市内小中学校児童生徒の、ごみ処理施設等の見学を中心にした標語、作文、習字書道、図画ポスター等の作品展を開催します。多数お誘い合せのうえ、

ご来場ください。

期日 9月27日(金)から9月29日(日)までの3日間
場所 中三デパート 5階催事場
主催 五所川原市民保健協議会

乳幼児の健康診査

- ▷ 場所 市保健センター
- ▷ 受付時間 午後1時～1時30分
- ▷ 持参するもの 母子健康手帳、バスタオル。3歳児は尿検査も行いますので、当日きれいに洗った小ビンに尿を入れてもってきてください。
- ※注意 6カ月児の健康相談の際に、神経芽細胞腫（小児がん）の検査セットを配布します。なお病氣療養中（特に伝染性の病氣）のお子さんはご遠慮ください。

月 齢	対 象 児	期 日	内 容
3 ヶ 月 児	60年6月生	10月8日(火)	健康診査
6 ヶ 月 児	60年3月生	10月15日(火)	健康相談
1 歳 児	59年9月生	10月28日(月)	〃
1歳6 ヶ 月 児	59年4月生	10月22日(火)	健康診査
3 歳 児	57年6月生	10月14日(月)	〃

- ▷ お問い合わせは
市衛生課（☎352111 内線268、272番）へどうぞ。

青森県人口予想懸賞募集

東奥日報社では昭和60年の国勢調査が実施されるにあたり、青森県の人口予想懸賞募集を行っています。

▷ 応募方法 官製はがきに昭和60年10月1日現在の青森県の予想人口を算用数字で1枚につき1点をはっきり記入すること。（同一はがきに2点以上記入は無効）

住所、氏名、職業、年齢を必ず記入すること。

▷ あて先 〒030 青森市新町2丁目2 東奥日報社事業局内 人口予想懸賞係

▷ 締切り 10月5日（当日消印有効）

▷ 当選発表等 本年12月末日までに総務庁統計局が発表（官報公示）する青森県の人口総数に一致したもの、または最も近いものから等級を決める。（予想数字が同数の場合は抽選）

同一人が2点以上入賞の場合は、上位1点とします。

発表は、東奥日報紙上で行います。

▷ 賞金

- 1等（1名）5万円 4等（1名）1万円
- 2等（1名）3万円 5等（1名）5千円
- 3等（1名）2万円 残念賞（20名）2千円



健康 コーナー

三種混合 百日咳、ジフテリア、破傷風 ワクチン接種

- ▷ 対象幼児 昭和56年10月1日から58年9月30日までに生まれた幼児。ただし、生後48ヵ月を経過した幼児は接種できません。
- 2期は、1期終了後12ヵ月を経過した幼児で、12月に接種することになります。
- なお、2期分については、昨年1期終了した幼児に限り48ヵ月以上でも接種できます。
- お問い合わせは、市衛生課（☎352111番 内線268・272番）へどうぞ。

地 区 名	実施場所	受付時間	1 回 目	2 回 目	3 回 目
本町・布屋町・弥生町・東町・大町・旭町・敷島町・難田・上平井町・中平井町・下平井町・幾世森・寺町・柏原町・錦町・幾島町・末広町・新宮町・芭蕉	市保健センター	午後1時 ～ 1時30分	10月23日 (木)	11月13日 (木)	12月6日 (金)
栄町・田町・蓮沼・不魚住・元町・鎌谷町・烏森・下り枝八重菊・一ツ谷・新町・柳町・岩木町・川端町・小曲・新宮長橋橋元・湊団地・若葉	〃	〃	10月24日 (木)	11月14日 (木)	12月11日 (木)
松 島 地 区 松 島 団 地	〃	〃	10月25日 (金)	11月15日 (金)	12月12日 (木)
み ど り 町 中 川 地 区	〃	〃	10月29日 (火)	11月20日 (木)	12月13日 (金)
栄 地 区 長 橋 地 区	〃	〃	10月30日 (木)	11月22日 (金)	12月18日 (木)
飯 詰・梅 沢・七 和 地 区	〃	〃	10月31日 (木)	11月27日 (木)	12月20日 (金)

原爆被爆者の実態調査にご協力を

厚生省では、原爆被爆者についての実態調査を本年10月3日(木)に実施します。この調査は、被爆者の方々の生活、健康等の状況を総合的に把握するとともに、原爆による死没者の状況を明らかにするための資料を得るためのものです。

本年8月1日現在で被爆者健康手帳を持っているすべての人に、10月2日までに調査票が県環境保健部公衆衛生課から郵送されますのでご協力をお願いします。

また、厚生省ではこの調査とあわせて官公署、企業、団体などをはじめ、一般の方々がお持ちの原爆による死没者に関する資料（例えば、原爆被災職員名簿等）を収集しています。

資料をお持ちの方は、青森県環境保健部公衆衛生課（☎0177-22-1111内線3126）までご連絡くださるようお願いいたします。

実施医療機関

小笠原内科医院	田辺胃腸科外科医院
兼平内科小児科医院	対馬内科小児科医院
川崎胃腸科内科医院	中村内科医院
富田胃腸科内科医院	増田病院
西北中央病院	松野医院
木村内科医院	復明堂医院
白生会胃腸病院	森田診療所
佐々木医院	三好診療所
佐藤内科小児科医院	森内科小児科医院
佐藤仁外科胃腸科医院	江渡医院
荘司内科医院	健生病院五所川原診療所
白戸胃腸科外科医院	※都合の良いところで受けて下さい。

市では四十歳以上の方を対象に成人病の早期発見を目的とした一般健康診査を実施します。
対象の方はぜひ受けるようにしてください。
職場等で受けられる方は除きます。

各支所、指定医療機関でお受け取り下さい。
▽診査内容 問診、身体計測、理学的検査(打診、聴診、触診) 血圧測定、検尿
また、医師が必要と判定した場合は精密診査が実施されます。
▽診査料金 一般健康診査無料、精密診査千円。ただし七十歳以上の方、生活保護受給者、市民税非課税世帯の方は無料となります。
▽問い合わせ先 市衛生課(☎35-2111番 内線二七二番)

つくろう健康なくそう成人病

「歴史の道(下北の道)めぐり」

参加者募集

▽日時 九月二十二日(日) 午前八時二十分発〜午後七時三十分着
▽コース 五所川原〜蟹田〜フェリー〜脇野沢〜猿山〜恐山〜石油基地〜青森〜板柳〜鶴田〜五所川原
▽集合時間・場所 午前八時、中三デパート前(市内本町)
▽会費 一人五千円(見学料、昼食、夕食代含む)
▽申し込み先 青森市大字松森字佃 青森県歴史の道整備促進協議会事務局(☎0177-421064番)
▽申し込み締切 九月二十三日
▽申し込み受付時間 午前八時三十分〜午後四時(日曜日を除く)
▽その他 会費は、当日ご持参ください。参加者が三十八名以下の場合中止することがあります。



西北五社会教育 振興大会のご案内

▷日時 9月24日(火) 午前10時〜午後3時30分
▷場所 木造町中央公民館
▷研究協議テーマ 「生涯教育における青少年健全育成のあり方を考えよう」
▷参加料 500円(昼食代含む)
▷締切り 9月19日
▷申し込み先 市教育委員会社会教育課(☎352111内線250番)
▷その他 当日午前9時15分、市民文化会館前からバスが出ますので乗車される方は、その旨お知らせ下さい。

みんなで守ろう
納税期限
9月30日は
国民健康保険税
第2期
固定資産税
第3期
の納期限です

行政相談のお知らせ

行政相談週間

みなさんが平日頃だいている行政に対する苦情、意見、要望等について「無料」で「迅速」に、そして「秘密」を守り、行政相談員の方が親身に相談に応じます。お気軽においでください。
▷期間 10月13日(日)〜19日(土) 午前8時30分〜午後4時
▷相談場所 市役所市民相談室 日曜、土曜日は自宅で相談に応じます。
▷相談員 成田栄一、五所川原市字本町36番地(自宅) ☎354023番
▷お問い合わせは 市民相談室(☎352111番 内線282番) へどうぞ。

お年寄りや障害者と税金



国は、すべての国民が健康で豊かな生活ができることを願ってさまざまな仕事をしています。なかでも、お年寄りや社会的、経済的に弱い立場にある人に対しては、老人医療給付や各種の施設の整備などいろいろな社会福祉事業を充実させる一方、税金の面でもいろいろな特典を設けています。詳しくは、最寄りの税務署や税務相談室までどうぞ。

年金住宅融資ご案内

厚生年金保険、船員保険の被保険者とする年金住宅融資の今年度第2回受付が行われています。
▷受付期間 8月15日(木)〜9月30日(月)
▷対象 一般住宅(新築、購入)。ただし、大型住宅、既存住宅購入(中古住宅)住宅改良(増改築、修繕)は通年受付をしています。詳しくは、県厚生年金勤労者住宅協会(☎0177-732077番)へ。

歴史の道(松陰の道)めぐり

参加者募集

警察官(B)
交通巡視員
募集 中

募集 中

▽日時 十月六日(日) 午前七時発 午後六時着

▽コース 五所川原 金木 中里 十三湖 福島城跡

▽算用師崎 竜飛 義経寺 平館台場 蟹田 今泉

▽集合時間・場所 午前六時五十分 中三デパート前(市内本町)

▽金費 一人三千八百円(昼食代含む)

▽申し込み先 青森市大宇松森字佃 青森県歴史の道整備促進協議会事務局(☎〇一七七〇一〇六四番)

▽申し込み締切 十月三日

▽申し込み受付時間 午前八時三十分 午後四時(日曜日を除く)

▽その他 ●会費は、当日ご持参ください。 ●登山用服装にズック靴を着用して下さい。 ●途中、山道を六キロメートル歩きます。歩けない人は、竜飛までバスで行くこととなります。 ●参加者が三十八名以下の場合中止することがあります。

▽受付期間 八月十六日(月)から

▽受験資格 ●警察官(B) 昭和三十三年四月二日から昭和四十三年四月一日までに生まれた男子(ただし、大卒者を除く) ●交通巡視員 昭和三十七年四月二日から昭和四十三年四月一日までに生まれた女子。 なお、警察官(B)、交通巡視員とも「日本国籍を有しない」など五項目に該当する人は受験できません。

海上保安大学校 学生募集

▷受験資格 昭和37年4月2日(大学校学生は昭和40年4月2日)以降に生まれた人で次に掲げるもの

- ①高等学校を卒業した人及び昭和61年3月までに高等学校を卒業する見込みの人
- ②高等専門学校の第3学年の課程を修了した人及び昭和61年3月までに高等専門学校の第3学年の課程を修了する見込みの人
- ③その他大学入学資格検定に合格した人等人事院が①に掲げる人と同等の資格があると認める人

▷採用予定数

大学校学生	約50人
水路	約10人
学校学生	約30人
灯台	約30人
通信	約20人
航海・機関・主計	約80人

▷受付期間 9月13日～9月26日(土曜日は12時まで。日曜日・休日を除く。郵送された申込書は、9月26日までの消印のあるものに限り受け付けます。申込用紙の請求や詳しいことは、青森海上保安部(〒030 青森市青柳1-1-2 ☎0177342421番)へどうぞ。

昭和60年度市合同金婚式

今年も、めでたく結婚50年を迎えられた長寿ご夫婦を心からお祝いするため、合同金婚式を行います。

対象となるご夫婦はお申し込みください。

▷日時 10月4日(金) 午前9時

▷場所 中央公民館

▷対象夫婦 婚姻届以来50年(昭和10年届出)を経過したご夫婦。

▷確認のため戸籍抄本が必要です。

▷申し込み締切日 9月24日(火)

▷申し込み先

市福祉事務所福祉係(☎352111 内線210番)

▽第一次試験
○日時 十月十三日(日) 午前九時
○試験地 青森市、弘前市、八戸市
○発表日 十一月二日

(予定)
受験申込書や詳しいことは、五所川原警察署総務課(☎352241番 内線二一一番)へどうぞ。

俳句

吾子生れし地や鮮やかに夏の蝶
ねぶたの灯遠のく闇に風立ちぬ
盆ほがひ水子の吾子に金平糖
花石榴双子の一人盗みたし
藻の沼の鮎とびはねる朝ぐもり
老いし身の猛暑に臥して風さそう

五所川原俳句会提供

対馬 暉子
成田 市子
斎藤 今日子
斎藤 さだ
前田 せい女
野村 とし

「愛の献血」お願いします

月	月	午 前	午 後
10月	9日(木)	10:00~12:00 市役所 お祭り広場	1:30~4:00 西北中央病院前
	23日(木)	10:00~11:30 本町 ②カサイ駐車場	12:45~4:00 五所川原高校前
	25日(金)	10:00~11:30 鎌谷町 コミュニティ防災センター	12:45~4:00 五所川原高校前

時局講演会

▷日時 9月26日(木) 午後1時
▷場所 市中央公民館
▷講師 坂田二郎氏(外交評論家)
▷演題 二つの40年 国連創設と第2次世界大戦終結
主催 国連協会五所川原支部
後援 市、市教育委員会